



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

岐阜県 下呂市立萩原南中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和7年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
 オリンピアン自身の様々な経験を通して
 「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
 この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、
 日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピアンはJOCが選定
- 期間： 2025年4月～2026年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
 チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
 ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
 オリンピックの価値を生徒に伝え、
 オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

※実施校の時間割に準じて対応いたします。

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

※実施校の時間割に準じて対応いたします。

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



写真・映像等を使用した自己紹介
学習内容の確認



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。

※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- **オリンピック**：石島 雄介 先生 (バレーボール・ビーチバレーボール)
【出場オリンピック／北京2008大会、東京2020大会】
- **期 日**：2026年1月20日(火)
- **ク ラ ス**：2年A組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



北京2008大会にバレーボール競技で、東京2020大会にはビーチバレーボール競技で出場したと自己紹介。現在も現役を続けている。バレーボール競技とビーチバレーボール競技の違いは、コートの大きさ、室内と屋外の違い、プレーする人数も違う。運動の時間は体を動かしながらオリンピックバリューを体感してほしい。屈伸、伸脚等の準備体操を行った後、合図に合わせて声と一緒に出しながら、前後左右、左右斜め前後、左右回転等の同じ動きをする。その後、合図と逆の動きにも挑戦。

○主運動等



主運動はバレーボールを使って三目並べを実施(リーグ戦全15回)。コート内に9つの輪を置き、3個のボールを先に揃えたほうが勝ちとする。2箇所にコートを作り、リーグ戦形式で全ての班と対戦する。3人目までは1人1箇所にボールを置き、4人目以降は輪の中に置いた自分の班のボールを移動させる。途中作戦タイムを設け、3個のボールを如何に早く揃えるかを各班で話し合う。後半、勝敗がなかなか決まらない試合が増えたことは、皆が工夫して取り組んだ結果だ。



運動の時間を振り返り、勝つという目標に向かって仲間と協力し、前向きな発言をしながら一生懸命取り組む姿が見られた。三目並べを初めて行った人が多かったが、対戦を重ねる毎に改善点を考え工夫しながら、勝つことに挑戦できていたことは素晴らしい。この時間の楽しかったことだけでなく、自分の行動や感じたことを座学の時間に振り返ってほしい。そのことがどうオリンピックバリューに結び付くかを考えようと伝え、授業終了。

- **オリンピック**：石島 雄介 先生 (バレーボール・ビーチバレーボール)
【出場オリンピック／北京2008大会、東京2020大会】
- **期 日**：2026年1月20日(火)
- **ク ラ ス**：2年A組／座学の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ オリピックの価値を伝える



自己紹介の後、42歳になっても現役を続けられる原動力はバレーボール競技が好きだからだと話す。努力したことが結果に結び付くことにやりがいを感じる。例え良い結果につながらなくても、次はどのように取り組むべきかを考えることができる。そこにはまだ成長できるという希望があり、その思いが競技を続ける支えになっている。中学生の頃は集団行動が苦手な一面があった。多くの経験をする中で、自分が少しでも変わろうと思えば変われることを学んだ。

○個人ワーク ～ グループワーク 等



発問：運動の時間を振り返り、どのような行動や言動がオリンピックバリューにあてはまるか考えよう。
 発表：エクセレンス：「全力を出し切った」「勝つための行動ができた」「全力でダッシュした」「何回も挑戦した」「作戦を考えた」等
 フレンドシップ：「応援や声掛け」「仲間と考える」「チームワーク」「意見を出し合う」「指摘し合う」「協力する」等
 リスペクト：「仲間を褒めることができた」「ルールを守る」「ありがとうが言えた」「能力の有効活用」「優しい発言」等



過去の自分は仲間と協力し合うことが苦手で内気な性格だったが、今はそのことを受け入れながら、変化した自分を感じることが出来る。努力を重ねたから今の自分がある。上達や成功の背景には、自ら考え行動する姿勢が大切で、失敗も次の挑戦につながる。上手な人を観察し、自分にもできると前向きに捉える視点が大事だ。どんな記録も時代と共に更新され続ける。これからは皆が様々な記録を新たに塗り替え、時代を切り開いていく存在だと話し、授業終了。

- **オリンピック**：石島 雄介 先生 (バレーボール・ビーチバレーボール)
【出場オリンピック／北京2008大会、東京2020大会】
- **期 日**：2026年1月20日(火)
- **ク ラ ス**：2年B組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



北京2008大会にバレーボール競技で、東京2020大会にはビーチバレーボール競技で出場したと自己紹介。現在も現役を続け多くの試合に出場している。バレーボール競技とビーチバレーボール競技の違いは、コート大きさ、室内と屋外の違い、プレーする人数も違う。屈伸、伸脚等の準備体操を行った後、希望生徒が前に出て、先生とのパスとレシーブに挑戦する。その後、合図に合わせて声を一緒に出しながら、前後左右、左右斜め前後、左右回転等の同じ動きや、合図と逆の動きをする運動に挑戦。

○主運動等



主運動はバレーボールを使って三目並べを実施(リーグ戦全15回)。コート内に9つの輪を置き、3個のボールを先に揃えたほうが勝ちとする。2箇所コートを作り、リーグ戦形式で全ての班と対戦する。3人目までは1人1箇所にボールを置き、4人目以降は輪の中にある自分の班のボールを移動させる。途中作戦タイムを設け、3個のボールを如何に早く揃えるかを各班で話し合う。最後は石島先生を含む先生3人の班と全勝の班で対戦する。



勝つという目標に向かって仲間と協力し、前向きな発言をしながら一生懸命に取り組んでいた。三目並べを初めて行ったと思うが、回数を重ねる毎に改善点や工夫点が増え、皆で挑戦できたことは素晴らしい。楽しかったことだけでなく、皆の行動や感じたことを座学の時間に振り返ってほしい。そのことがオリンピックバリューを更に理解することになる。また、自分のオリンピック出場までの経験を話し、オリンピックを身近に感じてほしい。

- **オリンピック**：石島 雄介 先生 (バレーボール・ビーチバレーボール)
【出場オリンピック／北京2008大会、東京2020大会】
- **期 日**：2026年1月20日(火)
- **ク ラ ス**：2年B組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



北京2008大会で1勝もできなかったことで強い挫折を感じた。しかし、ビーチバレーボール競技で出場した東京2020大会での無勝は、新たな目標を持って立て直そうと前向きな気持ちになった。バレーボール競技からビーチバレーボール競技に転向した当時は、すぐには上手くできず苦労した。集団行動が少し苦手だったが、仲間の協力や周囲の支えで自分は競技を続けることが出来る感謝を感じることで、少しずつ変わることができた。何よりバレーボール競技が好きだからこそ今の自分がいる。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間を振り返り、どのような行動や言動がオリンピックバリューにあてはまるか考えよう。
 発表：エクセレンス：「全力で走る」「楽しむ」「夢中になる」「限界への挑戦」「諦めない」「1本集中して走る」等
 フレンドシップ：「応援する」「円陣を組んだ」「ハイタッチする」「仲間と楽しむ」「一緒に喜ぶ」「声を掛け合う」等
 リスペクト：「本気で取り組む」「スポーツマンシップ」「ルールを守る」「相手を尊重」「友達の意見に賛成する」「反省する」等



皆はこれから経験したことのないことに挑戦するチャンスがある。結果がどうであれ、自分にとってプラスになると思うことで、次の挑戦へつながる。失敗を悔やむよりも自分にもできると前向きになることで、大きな違いが生まれる。今日の出会いやクラスの仲間との学校生活を大切に、色々なことに挑戦しながら経験を積んでほしい。これからは皆が様々な記録を新たに塗りかえ、時代を切り開いていく存在になってほしいと話し、授業終了。

■集合写真

・2年A組



・2年B組



■記念品贈呈

・2年A組



・2年B組



■修了証贈呈

